

第1章 地方拠点都市地域にかかる整備の方針に関する事項

1. 1 地方拠点都市地域の構成

(1) 地方拠点都市地域の名称

米代川流域地方拠点都市地域

(2) 中心都市名

大館市・能代市・鹿角市・北秋田市

(3) 地方拠点都市地域の構成

本地域は、中心都市である大館市、能代市、鹿角市、北秋田市ほか、秋田県北部の小坂町、三種町、八峰町、藤里町の4市4町で構成する。

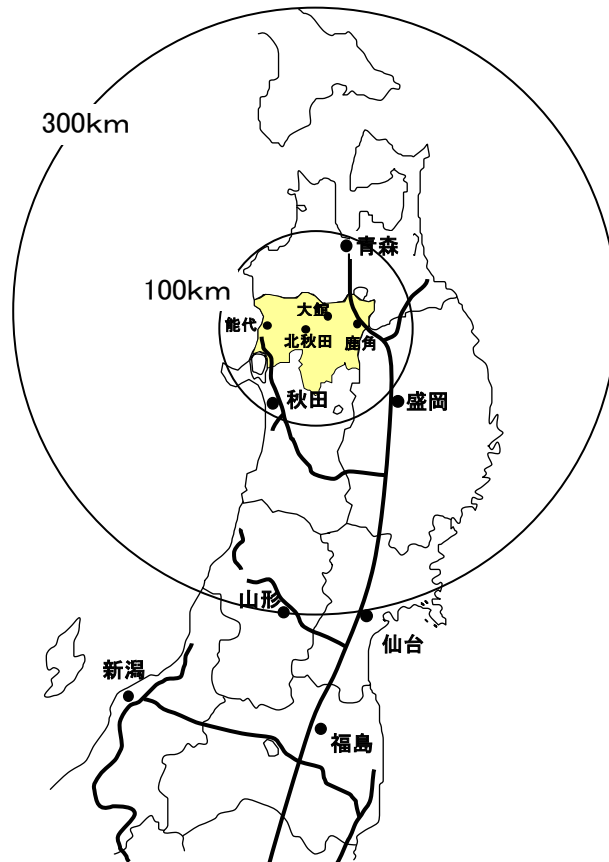
地方拠点都市地域の構成

| 構成市町村 | 人口 (人) | 面積 (km ²) | 備 考 |
|-------|-----------|--------------------------|-------------------------------|
| 大館市 | 82,504 | 913.70 | H17. 6. 20合併(大館市、比内町、田代町) |
| 能代市 | 62,858 | 426.74 | H18. 3. 21合併(能代市、二ツ井町) |
| 鹿角市 | 36,753 | 707.34 | |
| 北秋田市 | 40,049 | 1,152.57 | H17. 3. 22合併(鷹巣町、森吉町、合川町、阿仁町) |
| 小坂町 | 6,824 | 178.00 | |
| 三種町 | 20,438 | 248.09 | H18. 3. 20合併(琴丘町、山本町、八竜町) |
| 八峰町 | 9,012 | 234.19 | H18. 3. 27合併(八森町、峰浜村) |
| 藤里町 | 4,348 | 281.98 | |
| 計 | 262,786 | 4,142.61 | |

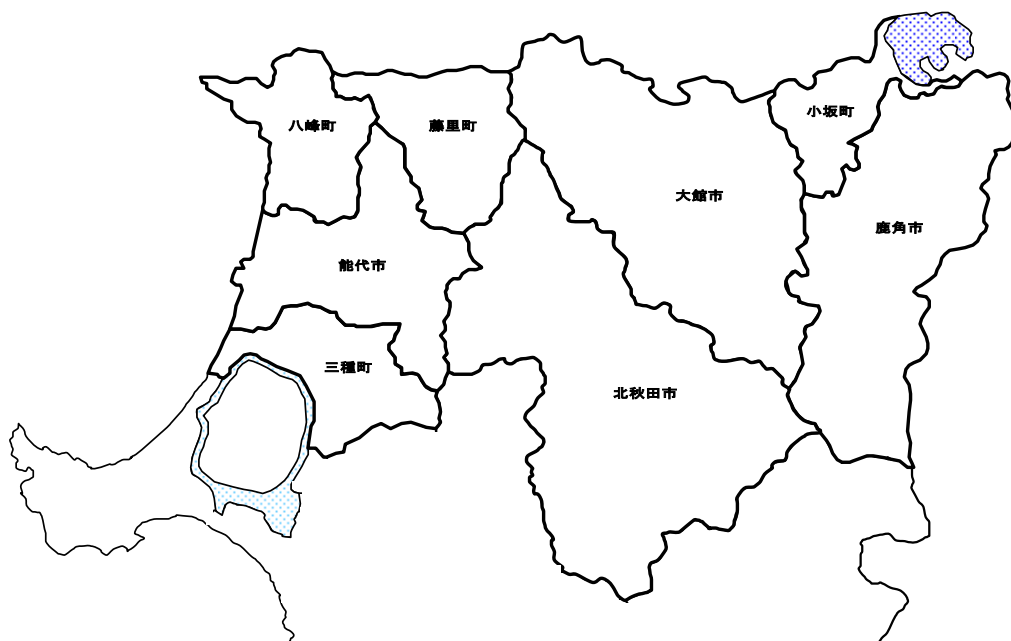
(資料:平成17年国勢調査)

1. 2 地方拠点都市の現況

位置図



圏域図



(1) 自然環境

米代川流域は、河口を日本海、三方を出羽丘陵、奥羽山脈、白神山地に囲まれており、肥沃な土地によって豊かな水田、畑地や森林に恵まれている。

気象状況は積雪の多い寒冷地であるが、山間部の米代川上流と日本海に面する下流とでは若干異なる。上流域は、奥羽山脈、出羽丘陵の内陸部に位置するため、年間の気候較差が大きく、典型的な内陸性盆地型である。特に1月、2月の平均気温は東北でも低いほうで、降雪期間が11月下旬から翌年3月までの長期間に及ぶ積雪寒冷地帯である。一方、下流域は対馬海流の影響で夏期において比較的高温となるほか、冬期は上流域に比べて積雪こそ少ないものの、季節風は強い。

(2) 人口動態

本地域の人口は262,786人（平成17年国勢調査）で、中心4市の人口は、222,164人となり、地域全体の84.5%を占めている。

構成市町村の人口推移

| 構成市町村 | 平成17年(人) | 平成12年(人) | 人口増減率(%) | 備 考 |
|-------|----------|----------|----------|-----|
| 大館市 | 82,504 | 86,288 | -4.4 | |
| 能代市 | 62,858 | 65,237 | -3.6 | |
| 鹿角市 | 36,753 | 39,144 | -6.1 | |
| 北秋田市 | 40,049 | 42,050 | -4.8 | |
| 小坂町 | 6,824 | 7,171 | -4.8 | |
| 三種町 | 20,438 | 22,112 | -7.6 | |
| 八峰町 | 9,012 | 9,698 | -7.1 | |
| 藤里町 | 4,348 | 4,708 | -7.6 | |
| 計 | 262,786 | 276,408 | -4.9 | |

(資料:国勢調査)

本地域の人口増減率は4.9%の減少である。減少率が最も高いのが三種町、藤里町の7.6%で、八峰町も7.1%と高く、中心都市では、鹿角市が6.1%と最も高くなっている。また、人口構成は少子高齢化が進んでおり、年少人口では、三種町、八峰町、藤里町の減少率が高くなっており、高齢人口では、能代市の増加率が高くなっている。

構成市町村の3年齢区分人口

| 構成市町村 | 0～14歳 | | | 15～64歳 | | | 65歳以上 | | |
|-------|--------------|--------------|------------|--------------|--------------|------------|--------------|--------------|------------|
| | 平成17年 (人) | 平成12年 (人) | 増減率 (%) | 平成17年 (人) | 平成12年 (人) | 増減率 (%) | 平成17年 (人) | 平成12年 (人) | 増減率 (%) |
| 大館市 | 10,316 | 11,585 | -11.0 | 48,314 | 53,134 | -9.1 | 23,816 | 21,527 | 10.6 |
| 能代市 | 7,468 | 8,436 | -11.5 | 36,987 | 40,226 | -8.1 | 18,396 | 16,572 | 11.0 |
| 鹿角市 | 4,640 | 5,366 | -13.5 | 20,848 | 23,299 | -10.5 | 11,265 | 10,452 | 7.8 |
| 北秋田市 | 4,459 | 5,242 | -14.9 | 22,421 | 24,665 | -9.1 | 13,160 | 12,141 | 8.4 |
| 小坂町 | 796 | 862 | -7.7 | 3,779 | 4,226 | -10.6 | 2,249 | 2,080 | 8.1 |
| 三種町 | 2,355 | 2,950 | -20.2 | 11,842 | 13,226 | -10.5 | 6,241 | 5,936 | 5.1 |
| 八峰町 | 1,005 | 1,260 | -20.2 | 5,060 | 5,664 | -10.7 | 2,947 | 2,774 | 6.2 |
| 藤里町 | 417 | 523 | -20.3 | 2,387 | 2,710 | -11.9 | 1,544 | 1,475 | 4.7 |
| 計 | 31,456 | 36,224 | -13.2 | 151,638 | 167,150 | -9.3 | 79,618 | 72,957 | 9.1 |

(資料: 国勢調査)

(3) 土地利用

土地利用の構成比は、耕地9.0%、宅地1.5%、山林77.5%となっている。能代市と三種町では耕地の割合が高い。地域の宅地は1.5%と、割合としては低くなっており、山林の占める割合が高くなっている。

土地利用

| 構成市町村 | 総面積 (km ²) | 耕地 | | 宅地 | | 山林 | | その他 | |
|-------|---------------------------|--------------------------|------------|--------------------------|------------|--------------------------|------------|--------------------------|------------|
| | | 面積 (km ²) | 構成比 (%) | 面積 (km ²) | 構成比 (%) | 面積 (km ²) | 構成比 (%) | 面積 (km ²) | 構成比 (%) |
| 大館市 | 913.70 | 79.00 | 8.6 | 17.70 | 1.9 | 701.48 | 76.8 | 115.52 | 12.6 |
| 能代市 | 426.74 | 77.20 | 18.1 | 15.43 | 3.6 | 248.63 | 58.3 | 85.48 | 20.0 |
| 鹿角市 | 707.34 | 67.20 | 9.5 | 10.21 | 1.4 | 553.43 | 78.2 | 76.50 | 10.8 |
| 北秋田市 | 1152.57 | 66.50 | 5.8 | 10.62 | 0.9 | 965.34 | 83.8 | 110.11 | 9.6 |
| 小坂町 | 178.00 | 8.95 | 5.0 | 2.44 | 1.4 | 141.98 | 79.8 | 24.63 | 13.8 |
| 三種町 | 248.09 | 59.90 | 24.1 | 6.01 | 2.4 | 133.50 | 53.8 | 48.68 | 19.6 |
| 八峰町 | 234.19 | 21.40 | 9.1 | 2.53 | 1.1 | 186.41 | 79.6 | 23.85 | 10.2 |
| 藤里町 | 281.98 | 10.30 | 3.7 | 1.05 | 0.4 | 239.31 | 84.9 | 31.32 | 11.1 |
| 地域 | 4142.61 | 390.45 | 9.4 | 65.99 | 1.6 | 3170.08 | 76.5 | 516.09 | 12.5 |

(資料: 平成18年度版 秋田県市町村要覧)

(4) 都市機能

中心4都市には、それぞれ県地域振興局、総合事務所、公立病院など公的施設や大規模店舗、金融機関などが集中しており、大館市では土地区画整理事業が、鹿角市と北秋田市では総合病院整備事業が進められている。また、能代市では能代港の整備促進に取り組んでおり、それぞれ都市機能の充実が図られている。

(5) 交通体系

本地域の中心に位置する北秋田市には、平成10年7月に大館能代空港が開港し、東京便、大阪便が就航しており観光をはじめとする地域間の交流促進や経済活動の促進に大きな役割を果たしている。

高速交通網では、日本海沿岸東北自動車道が一部供用となっており、現在も整備が進められている。一般道では、日本海沿岸東北自動車道の一部供用に伴い、アクセス道の整備も進められている。一般国道では、国道7号、国道285号、国道103号が地域内を横断しており、県中央をはじめ青森県、岩手県との玄関口として交流促進の重要な役割を果たしている。

鉄道はJR奥羽本線、花輪線及び五能線が地域内を運行している。さらに、県北部と県南を結ぶ内陸縦貫鉄道も運行されており、拠点地域内外の交流に大きな役割を果たしている。

(6) 産業構造

①産業就業人口

本地域内の産業就業人口は第3次産業の比率が5割を超えており高くなっている。

産業大分類別就業者数

| 構成市町村 | 就業者数(人) | | | | | 構成比(%) | | |
|-------|---------|--------|--------|------|---------|--------|------|------|
| | 1次 | 2次 | 3次 | 分類不能 | 合計 | 1次 | 2次 | 3次 |
| 大館市 | 4,105 | 12,766 | 24,489 | 26 | 41,386 | 9.9 | 30.8 | 59.2 |
| 能代市 | 3,097 | 9,492 | 18,751 | 25 | 31,365 | 9.9 | 30.3 | 59.8 |
| 鹿角市 | 3,160 | 6,280 | 10,217 | 6 | 19,663 | 16.1 | 31.9 | 52.0 |
| 北秋田市 | 2,960 | 6,915 | 10,826 | 8 | 20,709 | 14.3 | 33.4 | 52.3 |
| 小坂町 | 350 | 1,325 | 1,603 | 1 | 3,279 | 10.7 | 40.4 | 48.9 |
| 三種町 | 2,418 | 3,857 | 5,057 | 6 | 11,338 | 21.3 | 34.0 | 44.6 |
| 八峰町 | 1,081 | 1,894 | 2,065 | 0 | 5,040 | 21.4 | 37.6 | 41.0 |
| 藤里町 | 458 | 823 | 946 | 4 | 2,231 | 20.5 | 36.9 | 42.4 |
| 合計 | 17,629 | 43,352 | 73,954 | 76 | 135,011 | 13.1 | 32.1 | 54.8 |

(資料：平成12年国勢調査)

②農業

本地域の農業は、稲作が中心であるが、果樹や野菜などの栽培も盛んに行われており、主なものとして梨、りんご、メロン、ホップ、ねぎ、山うど、みょうが、とんぶりなどが挙げられる。

また、県内でも畜産が盛んな地域であり、全国的に有名な「比内地鶏」の産地を有し、年々出荷額が増加している。鹿角市、小坂町では家畜排せつ物の完全堆肥を用いた地域資源循環型農業やトレーサビリティシステムの積極的導入により、安全・安心で高品質な農産物づくりとブランド化を進めており、「八幡平ポーク」や「桃豚」は高い評価を得ている。

③林業

本地域の山林面積は、70%を超えており、県内においてもその割合は高く豊富な森林資源を有する林業地域となっている。今日林業の置かれている環境は厳しくなっているものの、秋田杉を加工した集成材など、高付加価値材の安定供給を図るための施策の展開により、国産材の供給地域としての再構築に向けて取り組みが行われている。

④水産業

本地域で海面漁業を行っている能代山本地域では、沿岸漁業を中心とした漁業が営まれている。特に、県の魚“ハタハタ”をはじめとして各魚介類の増加を目指して、「つくり育てる漁業」を推進している。

⑤鉱工業

鉱工業については、昭和60年代に鉱山の閉山が相次ぎ、唯一稼動していた小坂町の温川鉱山も平成6年に閉山となった。

このような状況の中、新たな鉱山技術の活用が模索され、平成11年に旧米代川流域地方拠点都市地域に阿仁町、上小阿仁村を加えた18市町村（合併前市町村数）が厚生大臣・通商産業大臣から「秋田県北部エコタウン計画」の承認を受け、資源循環型社会の構築に向かったの事業が開始された。

また、平成18年には能代港が、国の総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）に指定されている。

今後も、港や高速道路、空港などの高速交通体系の利活用の促進や、鉱山関連基盤の活用による金属リサイクル産業の推進と、家電リサイクル産業の振興により、新たな資源循環型産業の創出が期待されている。

⑥商業

商業では、中心都市に商業集積地があり、中心都市に隣接する各町村でも一定のエリアの商業集積がある。しかし、道路交通網の整備などに伴う郊外への大型量販店の進出に伴い、いわゆるドーナツ化現象により中心市街地の商業環境は厳しいものとなっている。

卸・小売業

| 構成市町村 | 卸・小売業年間販売額(百万円) | | | | | |
|-------|-----------------|---------|---------|----------|---------|---------|
| | 平成3年 | 平成6年 | 平成9年 | 平成11年 | 平成14年 | 平成16年 |
| 大館市 | 239,823 | 266,397 | 256,802 | 257,808 | 213,159 | 197,149 |
| 能代市 | 186,068 | 198,740 | 203,983 | 211,972 | 127,537 | 130,125 |
| 鹿角市 | 56,618 | 57,599 | 61,834 | 53,925 | 48,845 | 48,573 |
| 北秋田市 | 99,015 | 87,039 | 89,976 | ※ 51,020 | 40,777 | 43,003 |
| 小坂町 | 6,004 | 5,453 | 5,506 | X | 3,224 | 3,877 |
| 三種町 | 15,117 | 17,209 | 17,743 | 15,345 | 14,165 | 12,490 |
| 八峰町 | 6,086 | 6,232 | 6,864 | 6,721 | 8,529 | 4,660 |
| 藤里町 | 2,933 | 2,962 | 2,928 | 2,380 | 1,724 | 1,811 |
| 合計 | 611,664 | 641,631 | 645,636 | 599,171 | 457,960 | 441,688 |

※旧阿仁町分の年間販売額Xを含まない。
(資料:秋田県の商業)

⑦観光

本地域は、世界遺産で知られる白神山地をはじめ、国立公園十和田八幡平、県立公園田代岳等の高原リゾートエリアのほか、日本海に面したマリンスポーツエリアと豊富な自然が広がっている。

また、拠点都市地域内には数多くの温泉施設を有し県内でも有数の観光資源地域である。

今後は、これら多くの観光資源を活用し、観光を地域の重要産業と位置づけグリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズム、エコ・ツーリズムによる体験型・滞在型の観光地域として整備をする。

(7) 市町村の状況

①大館市

「県北部エコタウン計画」との調和を図りながら、日本有数の鉱山関連技術・基盤を活用した土壌の浄化や廃棄物の再資源化・再利用などのほか、現在では、北東北三県の家電四品目（エアコン、テレビ、冷蔵庫および洗濯機）が全て大館で処理されており、資源リサイクル産業の振興が図られている。

農業においても、コンポスト堆肥の使用等により、環境と調和した持続性の高い循環型農業を積極的に取り入れている。

商工業においては、9箇所の工業団地に32社が操業している。現在県営、市営の工業団地の未分譲面積が少なくなってきたことから、引き続き企業立地を進めていくために、工業団地の拡張や団地周辺の道路等の整備、さらには立地企業への優遇制度の充実を図っていく必要がある。

②能代市

能代地域は、「県北部エコタウン計画」の着実な進展や周辺地域のリサイクル産業の振興を踏まえ、重要港湾である能代港の整備促進と、総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）としての利活用促進に取り組んでいる。

また、これに関連した資源循環型企業の立地促進やエコマテリアル等の活用を重点的に推進している。

主要産業である農業についても、循環型農業をめざし、安全と安心、信頼を念頭に置き、地産地消、スローフード運動を促進し、消費者に身近で顔の見える取り組みを支援している。

木材産業においては、木材高度加工研究所と木材関連企業とが連携・協力して行う技術の移転、新製品の開発、木製品の需要拡大、低コスト化などへの取り組みを支援し、木材産業の総合基地づくりを促進している。

③鹿角市

個人と団体が、また市民と行政が同じ視点に立ってまちづくりを進める「共動」の理念のもとで政策を推進している。

少子高齢化が急速に進んでいることから、保育施設、高齢者福祉施設等の拡充を図ってきたほか、市民の協力を得ながら育児ボランティア活動や自治会における福祉活動の拡大を進めている。

農業においてはトマト、きゅうりなど収益性の高い作物の導入を図り特色ある複合経営の拡大に努めているほか、古くから飼養されている鹿角短角牛の生産奨励や、新しい地域の特産である桃の作付け拡大を進めている。商工業においては工場等の設置支援を単独で実施し、成果を挙

げている。また、温泉、祭りなどの多彩な観光資源に恵まれていることから観光業に力を入れており、受入体制の強化を通じて観光誘客の拡大と滞留型観光の定着、さらに地域雇用の拡大を図っている。

さらに、市民団体の活力・能力を生かして行政サービスの提供を進める「共動パートナー制度」や、行政情報化を推進するための光ファイバー網の整備など、新しい行政活動の基盤形成に向けた取組みを進めている。

④北秋田市

北秋田市の観光振興の根幹をなす森吉山を中心とした自然あふれる観光資源を活かし、秋田県の重点プロジェクトである「マタギの森へ」構想到に市として積極的に参画することにより、マタギ文化を体験するスローツーリズムの先進地域として旅行者の増大が図られている。

また、秋田内陸線再生計画に基づき、乗車運動を推進するため地域住民の新たな熱意と乗車運動強化を北秋田市と仙北市の協働により、沿線地域の観光と強く結びつけた取り組みとして展開している。

統合病院建設については、平成17年9月に作成された医療整備基本構想に基づき、基本設計、実施設計を作成し、平成21年度の開設に向け、作業を実施している

⑤小坂町

四季を通じて美しい景観を織りなす十和田湖を有し、幕末期から鉱山町として栄えてきた歴史を持つ、鉱山文化の漂う町である。鉱山町として培われてきた経験や技術、十和田湖の自然、産業文化遺産としての康楽館、小坂鉱山事務所などの基盤を背景に、誇れる、強い、やさしい町を基本目標に、21世紀にふさわしい、町民だれもが安らぐ町、環境に配慮した町「エコライフ・タウン」の形成を目指した事業・構想を展開している。

環境分野については、「小坂町エコタウン構想」に基づき、鉱山関連技術の活用による工業製品から金属を再生するリサイクル産業を推進し、一方では、食品残渣の堆肥化や廃食用油のBDF(軽油代替燃料)化など、資源循環型社会の構築に向けた取組みを推進している。

⑥三種町

農業を基幹産業とする三種町は、メロンやジュンサイ、梅などの特産品を全国ブランドとしての確立をめざす一方で、直売所を中心とした地産地消により生産者と消費者との距離を縮め、食品の安全と安心、信頼を基軸とした農業に取り組んでいる。

観光振興に関しては、伝説と信仰の山「房住山」や縄文時代の遺跡、海水よりもしょっぱい森岳温泉、そして快水浴100選に選ばれた釜谷

浜海水浴場などの恵まれた地域の特性を各種のイベントと結びつけ、地域活性化を図っている。

⑦八峰町

白神山地に代表される豊かな自然環境の保全と共生を図るために、秋田白神体験活動センター（仮称）を拠点とするエコツーリズム等の自然体験学習活動を平成19年度から開始する。また隣接する「ハタハタ館」を大幅にリニューアルして観光客誘致につなげる。農林水産業においては、ほ場整備、林道開設、漁港整備等の基盤整備事業を重点的に展開している。生活関連の下水道においては整備率が17年度末で8割を超え、平成23年度の計画区域の全戸供用開始に向けて、管渠延長工事等に取り組んでいる。

⑧藤里町

藤里地域は、農村としての特色を活かし、エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズムの普及・定着化を図り、都市との交流を推進している。

そのなかで、農産物の地産地消や自然環境の保護・保全、歴史や文化のふれあいを図ることにより、地域の更なる発展をめざしている。

また、商工業においては、地域提案型雇用創造促進事業を活用して、都市農村間交流と観光を結び付けるための人材育成や新規起業者への研修を実施している。

1. 3 地方拠点都市地域の整備の基本方針

(1) 基本目標

①地域特性

- ・交通と経済の北東北の拠点交流都市
- ・環日本海交流を担う海洋交流都市
- ・国立公園の豊かな自然を活かした高原交流都市
- ・構造特区と空港を活かした密着型交流都市

②基本目標

米代川流域地方拠点都市地域では、「秋田県北部エコタウン計画」に基づき、環境にやさしい産業の創出と、豊かな自然環境を活用した、「複合交流都市圏」を創造する。

また、大館能代空港と日本海沿岸東北自動車道等の整備による交通の利便性と、各地域の多様な自然資源を活用した、観光リゾート地としての「北東北の観光拠点交流エリア」を形成する。

(2) 計画の目標期間

平成19年度から概ね10年間とする。

1. 4 整備の基本方向

(1) 基本方向の展開

一般国道と日本海沿岸東北自動車道の整備により、大館、能代、鹿角そして北秋田の4つの地域が連携し、それぞれの地域の特性と潜在力を活かして、「複合交流都市」を創造する。

中心4都市には、それぞれ県地域振興局、総合事務所、公立病院など公的施設や大規模店舗、金融機関などが集積しており、国道7号等により拠点地区間を結び周辺地域との連携のもと、「職・住・遊・学」の機能が一体となった整備を図ることにより、青森県・岩手県との接続性を高め北東北の拠点都市を目指す。

また、世界遺産、国立公園等の多様な観光資源を活かすために、大館能代空港と整備された道路網及び能代港の利活用により交通と経済の拠点となる中心4都市の観光資源を活用し、観光リゾート地としての「北東北の観光拠点交流エリア」の形成を確立する。

①都市機能の拡充

中心4都市はこれまで様々な都市基盤整備が行われてきた。今後は蓄積された基盤をもとに、商工業、観光、教育など文化的な都市機能の充実を図る。また、周辺町村においても、交通アクセス網の整備により、都市的な空間づくりに取り組んでいく。

②圏域の連携性の確保

平成10年の大館能代空港の開港により、首都圏、近畿圏との連絡時間が飛躍的に短縮され、産業立地や観光への利便性が図られてきた。

今後は、空港と周辺主要観光地を結ぶアクセス道の整備により首都圏との交流拡大を図る。

一方、道路網については、日本海沿岸東北自動車道の早期整備と一般国道、主要地方道の整備により交流拡大を図るとともに、快適な居住空間の実現を図るために市町村道の整備を促進する。

③生活の豊かさと快適さの実感

若者の地域外への流出の歯止め、定住化の促進、Aターン受け入れ等のためにも、多様なライフスタイルを前提とした居住空間を確保するため、道路、上下水道、公園、通信情報ネットワーク基盤などの生活関連基盤の整備を推進する。

④培われた技能と資源を活かした産業の発展

「秋田県北部エコタウン計画」との調和を図りながら、日本有数の鉱山関連技術・基盤を活用した資源リサイクル産業が展開されている。

さらに、資源リサイクル施設の整備を推進するほか、資源リサイクルの関連企業や研究機関等とも連携を図りながら、日本の資源リサイクルに関する研究・教育・産業拠点の形成を目指す。

また、本地域は世界遺産の「白神山地」など特色のある自然環境と、多くの温泉施設を有していることから、これらの観光拠点を有効に活用し交流の拡大を図るとともに、地域独自の資源を最大限活用することにより、今後は、地元企業の育成と企業誘致に積極的に取り組み、産業の活性化を図る。

(2) 機能分担

①地域ゾーン分担

■交通と経済の北東北の拠点交流ゾーン

(大館市)

日本海沿岸東北自動車道の早期整備と一般国道及びアクセス道の整備により、北東北の中心に位置する地理的な好条件を活かし、様々な交流活動の機会の創出を図る。

さらに、エコリサイクル産業の推進と看護福祉大学による人材の育成と確保により、職・住・遊・学の多様な機能が融合した、北東北の拠点となる交流ゾーンの形成を目指す。

■環日本海交流を担う海洋交流ゾーン

(能代市・八峰町・三種町・藤里町)

伝統的な木材産業の集積や高度加工技術研究機関による先進的な取り組みを行うとともに、風力発電などの新エネルギーの活用と、資源リサイクルを推進し、地域の資源を活用した産業振興を図る。

また、北部エコタウン構想との連携による、地域産業の物流拠点としての能代港の機能強化を促進し、世界遺産の「白神山地」と豊富な海洋資源を活用した、環日本海の交流を担うリゾートエリアの形成と海洋レクリエーション交流ゾーンの形成を目指す。

■史跡と国立公園の豊かな自然を活かした高原交流ゾーン

(鹿角市・小坂町)

本地域は東北自動車道が通過しており、3箇所インターチェンジ(小坂・十和田・鹿角八幡平)により、青森・盛岡・八戸などとの都市間交流も活発である。

さらに、東北新幹線との接続や、大館能代空港の開港により、東京・大阪圏との時間短縮が図られ、観光等の産業に刺激を与えていることから、十和田八幡平国立公園や国指定特別史跡である大湯環状列石などの豊富な地域資源を活用した、高原交流ゾーンの形成を目指す。

■空港を活用した地域密着型交流ゾーン

(北秋田市)

本地域は、自然や伝統文化など観光資源に恵まれているものの、観光客の滞在時間が短く通過型の観光が主体となっている。

このため、大館能代空港の航空需要の利活用拡大に努め、空港を基点とするアクセス網の整備と、日本海沿岸東北自動車道などの交通ネットワークの整備により、地域間交流を促進するとともに、新たな観光形態であるスロートーリズムの拠点を目指し、国の第7次構造改革特別区域計画に認定された「阿仁マタギ特区」を活用し、地域の人材・素材を活かした体験型・滞在型観光の確立に向け、地域密着型交流ゾーンの形成を目指す。